

使用するヘッダ

signalVoltage1.p.v 、 signalVoltage1.n.i 、 inertia1.flange_a.tau 、 inertia1.w

使用する Excel の関数

最大値を求める・・・MAX()

π (円周率)・・・PI()

1. 特性表生成に使用するデータを作成する

入力の列を作成する

入力 = signalVoltage1.p.v * signalVoltage1.n.i

出力の列を作成する

出力 = inertia1.flange_a.tau * inertia1.w

効率の列を作成する

効率 = 100*出力 / 入力 (入力値が 0 の場合、効率は 0 にする)

回転数の列を作成する

回転数 = 60 * inertia1.w / 2π

2. 特性表の要素を抽出

- ・定格電圧 (V)・・・signalVoltage1.p.v の 1 番目の値
- ・始動電流 (mA)・・・signalVoltage1.n.i の最大値を 1000 倍する
- ・停動トルク (mN.m)・・・inertia1.flange_a.tau の最大値を 1000 倍する
- ・最大効率 (%)・・・効率の最大値を求める
- ・定格トルク (mN.m)・・・最大効率を出した時の inertia1.flange_a.tau の値を 1000 倍する
- ・定格回転数 (rpm)・・・最大効率を出した時の回転数
- ・定格電流 (mA)・・・最大効率を出した時の signalVoltage1.n.i の値を 1000 倍する
- ・定格出力 (W)・・・最大効率を出した時の出力の値
- ・最大回転数 (rpm)・・・回転数の最大値